

# 令和3年度 第1回総合教育会議議事概要

令和3年7月13日（火）に令和3年度 第1回総合教育会議が開催されました。

第1回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

## 令和3年度 第1回福知山市総合教育会議 議事概要

日 時 令和3年7月13日(火)  
午前10時00分～  
場 所 市役所6階 601会議室

### ■出席者(敬称略)

教育長 端野 学  
教育委員 塩見 佳扶子、和田 大頭、加藤由美、織田信夫  
市長 大橋 一夫  
事務局  
市長公室長、経営戦略課長

### ■開会 大橋市長挨拶

端野教育長をはじめ、教育委員の皆様には日頃から本市教育の充実発展に御尽力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

また、依然続くコロナ禍において、学校運営などに細心の注意を払いながら、教育行政を進めていただいていることに、重ねて厚くお礼申し上げます。

今日の教育を取り巻く状況においては、新型コロナウイルス感染の危険性が続く状況の中で「新しい生活様式」に応じた環境整備や教育を推進していく必要がある。

また、近年急速に進む少子高齢化、人口減少といった課題や情報技術の進歩に伴う社会経済環境や価値観の変化、地球温暖化の影響による気候変動など、子どもたちを取りまく環境が大きく様変わりをしている。一方で、AIやICTなどが社会の基盤となり、急速に進展をしている。そのような中、未来を生きる子どもたちを育てていくため、市と教育委員会が連携を深め、「教育のまち 福知山」の更なる発展に向け取り組んでいく必要があると認識している。

本日の会議では、二点の協議をお願いしたい。

一点目は、今年度改訂を行う本市教育大綱に関して、策定の進め方やスケジュールについてご協議いただきたい。

二点目は、大きく変わりゆく社会の中で子どもたちが、必要な資質や能力を身につける教育を実現するために、福知山公立大学とも連携しながら先進的に取り組んでいる「ICT活用教育」について、報告や紹介を交えながら意見交換をさせていただきたい。

短い時間ではありますが、この会議を通して本市教育の振興が図られますことを期待する。

### ■協議事項

#### (1) 福知山市教育大綱の改訂について

##### 大橋市長

昨年12月の総合教育会議において、現在の教育大綱は、1つは本市の最上位計画「未来創造福知山」から教育に関わる計画を抜粋して策定していること、2つ目には令和2年度に「未来創造福知山」の改訂を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により策定時期が1年延伸したことを説明申し上げ、教育大綱の改訂についても「未来創造福知山」の改訂と合わせて、令和3年度に行うことを皆様に御了承いただいたところであ

る。本日は大綱策定の進め方や、今後のスケジュールについて説明させていただき、皆様方から御意見を賜りたい。事務局より説明する。

#### 事務局

・【資料1 福知山市教育大綱の体系図(案)】をもとに、教育大綱の位置づけ、教育大綱に盛り込む内容案について説明

・【《参考資料》(仮称)まちづくり構想福知山策定にかかる市民懇談会 中間とりまとめ(第2分科会)】にて市民懇談会での意見内容を紹介

本日は皆様に項目として欠けているのではないかと、こういったところに力点を置くべきではないかと意見をいただきたい。

#### 和田委員

市長が就任いただいてから、「子育てのしやすいまち」づくりに力を入れて取り組んでいただいて、今日の状況から言うと、保育園が子ども園に移行され幼稚園と繋がり、そして今回のICTを通して大学まで見通した教育環境が整うことになった。

こういった状況の中で、もしかすると福祉分野に記載されることになるのかもしれないが、幼児の分野が大綱内容案にないので、幼児から大学までを見通した記述をしてほしい。

この、子育てから大学までの教育環境は他市にない福知山市の誇る教育だと思う。

#### 事務局

いま頂いた意見については、市民懇談会でも【子育ての環境】についての項目があるので、整理し反映できるようにしたい。

#### 塩見委員

教育大綱は、国や府の教育振興基本計画を勘案して、市の総合計画と整合性を図っていくものとする。しかし、来年度からの本市の総合計画((仮称)まちづくり構想福知山)は現在策定準備を進められているところである。現時点では、「まちづくり構想福知山」の内容がはっきり分からないので、明確に大綱の内容について検討するのが難しいのではないかと考える。しかし、改めて教育大綱は内容を変えて策定していただけたら良いと思う。その策定にはいろいろな市民の方の懇談会での意見もあったが、市民の手による教育プランを内容に込めていくのがよいと思う。誰もが目指している教育の理念などが分かりやすくなるよう、分かりやすい言葉を使って、「子育てしやすく学びの充実した福知山」、「住みたいまち、福知山」をアピールできるようにしてはどうか。

策定の背景や基本理念など挙げていただいている内容の項目については賛成。大事なことだと思う。その中で、教育大綱の内容(案)の「○基本方針、重点項目」のところ、現大綱の項目が9個並列にある。先ほども話にあったように、軽重をつけていくほうがよいのではと思う。今申し上げたように、福知山の教育の方針が市民に分かりやすくなるよう、平易な言葉を使って表記していくようにすればよい。年度末には評価を行い、PDCAで教育行政の充実を図るとともに、市民への説明責任を果たしていければよいと思う。「共に幸せを生きる」ということを具現化するために、「人づくりはまちづくり」ということで、市民目線で策定できればよいのでは。

#### 織田委員

私は教育の専門ではなく、民間から教育委員として就任しているが、先ほどお話していただいた「教育大綱の内容(案)」の「○基本方針、重点項目」のところについて、「将来

福知山に残って今の地元、民間企業へ従事していただけるような、福知山の経済を担う人材育成」についても生涯学習の分野になるかと思うが、大綱に含められたらと思う。

#### 加藤委員

教育大綱がより具体的な構成で、市民や学校現場に浸透していくことを願う。

#### 大橋市長

先ほども「(仮称)まちづくり構想福知山」が出来上がっていない中で検討しにくいという意見もあったので、事務局よりスケジュールを説明する。

#### 事務局

##### ・【資料1 策定スケジュール(案)】にもとに、説明

先ほどいただいた意見を軸に概要を秋までに事務局で作成する。また、「(仮称)まちづくり構想福知山」策定における市民からの意見も教育大綱に反映する必要がある。これについては、おおよそ10月にまとまる予定なので、反映させた形を秋に示したい。

## (2) 意見交換 テーマ「ICT活用教育の推進について」

#### 大橋市長

総合教育会議では、これまでも「激変する今後の社会を生き抜く力」を子ども自身が身につけるために、ICTやSDGsのように先端技術や世界的な価値観を取り入れた教育の重要性や、地球温暖化など気候変動により頻発化・激甚化する自然災害から身を守るための防災教育の充実など、子どもの頃から、しっかりと身につけておくべき大切な力について、委員の皆様と意見交換を行ってきた。

今回は、「ICT活用教育の推進について」というテーマを設けている。

ICT活用教育に関して、本市では、平成30年に府内の市町村で初めて、論理的思考や創造性、問題解決力を育成するプログラミング教育を導入し、未来を生き抜く力を育てる学びについて、いち早く取組を始めた。また、公立大学と連携し、AIの活用やデータ収集により児童・生徒一人ひとりに最適な学習環境を提供するための先進的な事業を積極的に展開している。

こうした取組に対し、委員の皆様からご期待を寄せていただく一方で、教育現場での対応や教員の負担増加についての御懸念もいただいていた。

そこで、本日は、本年4月から全児童・生徒に配備しているタブレットによる授業の様子や、教員への支援体制について担当課より説明申し上げ、委員の皆様にも実際にタブレットに触れていただこうと思う。また、本市のICT教育の最大の特徴であります公立大学との連携や独自の取組についても説明し、委員の皆様から御質問や御意見をいただければと思う。

#### 教育委員会 教育総務課・学校教育課

(説明項目)

##### ● ICT環境整備について

##### (1) 導入した機器類の紹介

・iPad、大型モニター 等

##### (2) ソフトウェア

・授業用ソフト(ミライシード、ロイロノート)

- ・管理用ソフト（MDM、フィルタリング）
- (3) その他無料アプリ
  - ・Microsoft365
  - ・ウェブ会議ツール（Zoom、Teams） 等

●ICT活用支援について

- (1) 支援体制について
  - ・係の新設
  - ・担当指導主事の配置
  - ・ICT支援員の配置
- (2) 研修等の実施状況
  - ・ロイロノートの研修（5月11日）
  - ・ミライシードの研修（7月6日）
  - ・情報教育推進担当教諭の交流会議（6月17日）

●学校での活用状況

- ・タブレット型端末 使用例
- ・授業の様子（動画視聴）
- ・持ち帰りの実施状況

●iPadの操作体験

- ・ミライシード（ドリル教材「ドリルパーク」）
- ・ロイロノート（授業支援）

●ラーニングイノベーションプロジェクトの今後について

- ・学校教育課より【説明資料2-2】をもとに説明
- ・福知山公立大学情報学部 西田教授より  
【別添パワーポイント資料】をもとに説明

●質疑応答・意見交換

**塩見委員**

家に持ち帰った際や学校で故障した場合はどうするのか？

**教育総務課**

無償での修理が一定数（全機器の5%まで）可能である。

予備機も各校に一定確保しており、教材アプリもログインすればいつでもどおりの環境で利用できる。その間に壊れた端末は修理をする。

**塩見委員**

家に持ち帰る際の個人情報（映像や写真）の対応についてはどうしているか。

**教育総務課**

運用ルールを定めて、指導している。写真は端末に残ってしまうので、基本的に消去をしたいが、まだその消去のシステムは整っていないのが現状であり、対応を考えていきたい。

#### 塩見委員

一学期の間だけでも学校格差ができていくという説明があったが、1年だと、格差が広がるかもしれないし、縮まるかもしれない。その格差ができるだけないようにする対策はしているのか。

#### 教育総務課

まずはICT機器が得意な先生に利用の事例をなるべく挙げてもらい、その後ICT支援員が支援を行いつつ苦手な先生にも使ってもらえるようになればと考えている。今の段階では、使い方を我々も提示できる段階にはないので、モデルとして取り組んでいる学校や得意な先生が使われている方法をピックアップさせてもらっている状況。これから夏休みの期間を利用して、学校を巡回して回り、各校での困りごと等を聞いて回りたいと考えている。こういった取組みを通して、全体の底上げを図っていきたいと思っている。

#### 織田委員

ラーニングアナリティクスについて、「学びの足跡」や「追跡」の話があり、分析したデータを可視化することだが、その可視化する時期はいつを考えているか。

#### 福知山公立大

可視化するためのデータや、何を可視化していくかという問いかけも必要。

大学としては、まずは、「夏休みの機器持ち帰りによるドリルの実施状況」について可視化したいと思っており、ラーニングアナリティクスをスタートさせようと考えている。

本来の「ラーニングアナリティクス」「可視化」の意味では、学校現場の先生方から何かしらの問いや仮説をいただいて、それに対してデータ分析を行っていくので、これから検討を進めながら生の声をいただき、それに対してアウトカムを出していくことになるが、それ自体はすぐにできるわけではなく、相談をしながら進めていくことになる。

#### 学校教育課

本来の意味の「ラーニングアナリティクス」を行うには一定期間年数を要する。しかし、「ミライシード」の中に蓄積されるデータのみでの分析であれば「ミライシード」の中で発出できるようになっているため、どこまでのレベルの可視化を求めるかということになるが、単に子どもがドリル学習した結果の分析であれば「ミライシード」の中で分析できるソフトを採用している。本市が言う「ラーニングアナリティクス」「ラーニングイノベーション」ではもう少し多角的、オリジナルな分析を行っていくことになる。

#### 和田委員

ICT教育により、7万人規模の福知山市の子どもたちと情報あふれる大都市の子どもたちと肩を並べて情報が得られることになる。そしてICTを活用した幅広い教育を受けられるようになり、福知山の子どもたちも世界を視野に学んでいけるようになったと感じる。福知山公立大においても、「大学から世界に繋がる」「大学から世界が見える」という言葉が大学のパンフレットに書かれており、まさしく心強く思う。

一方で、昔は地域に数台あるだけであった電話が各家庭に置かれるようになり、携帯電話、スマートフォンへ移り変わり、同じ家のなかにいる親子がLINEでやりとりすると聞くこの頃、便利になった一方で、「会話」が減り、コミュニケーションが減っていつの間にか「書く」ことも減り、文字を書く力も不足してきている。

仮想体験（VR・AR）は多くの学習の場が広がって期待される事も大きいですが、飼育していた昆虫が動かなくなると電池の交換を親にねだったと言う話もある。子どもの未来に直結することではあるので、ICTの弱点は何か、そこを十分に把握しながら、より慎重に丁寧に、そしてダイナミックに進めてほしい。

#### **加藤委員**

学校訪問をして、ICT教育を現場で積極的に活用している様子を見た。昔に比べて大変便利になり、学習が理解しやすい環境にもなっている。一方で、現段階では従来の授業方法にICTを取り入れているため、本来簡略化できるはずの部分が煩雑となっており、機器の操作をするうちに1時間で授業が終わりきらない様子もあった。そういった物理的な課題点も改善されていけばいいと思う。そしてICTの活用が本市の大きな課題である学力向上や不登校の子どもを救うスキルになればと思う。

また、ICTの活用により、先生と子どものコミュニケーションが阻まれる可能性もある。本来の授業で大事にすること（話すこと、書くこと、表現力等）が失われることも危惧される。効果のエビデンスがまだはっきりしていない中、今後どの先生に対しても効果的な活用の見通しが持てるような青写真が必要ではないかと思う。

#### **大橋市長**

それでは、本日予定しておりました総合教育会議の議事については以上となる。引き続き市長部局と教育委員会事務局相互が連携を密にし、教育行政の推進に対応していきたいと考えている。

#### **■閉会 端野教育長挨拶**

本日は2つのテーマでお話いただいた。

1点は「教育大綱の改訂」について。これから福知山を将来的に担っていく人材を育てるための大事な期間を受け持つ教育、その教育の中身についての設計図、計画を今回改訂していく。スケジュールに沿って、慎重に将来を見通す中で、そして現実も見ながら改訂を進めていかなければならないと思う。福知山市の目指す人づくりの方向性として、「教育のまち福知山」ならではの教育、教育目標の「3ため（自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成）」を実現していくような教育をこれから進めていかなければならない。子育てと教育は違うと思っている。子育てには必ず教育が必要、教育があって初めて人づくりができると思う。今回の大綱には子育ての部分とその環境、教育内容について様々織り込まれていく。大きなテーマではあるが、スケジュールに沿って、市民の声も聞きながら改訂を進めていきたい。

2点目の「ICT活用教育」について。大江学園が今年度開校したところではあるが、開校が数年後になっていたら、現在の黒板があるような教室設計にはならなかったかもしれない。子どもにとってはタブレットが「文房具」であり、教師からすると「教具」となる。小さな箱（ICT機器）が手元があればあらゆる事が瞬時にできる。30人の子どもの情報も瞬時に得ることができる。現在各校でもICTを活用し工夫した取組みをどんどん進めている様子である。

一方で、あくまでも主体的、対話的で、深い学びの授業改善のためにICT活用を進めるという視点は忘れてはいけない。授業力、指導力があってこそ、この小さな箱が生きる。決して魔法の箱ではないということも強く思う。小学1年生の子どもが正しく鉛筆を持って字を書けているか、こういった基礎基本の部分も忘れてはいけない。子どもが端末を使

う際のルール、健康面への配慮、個人情報やトラブルが起きた際の対処、情報共有の仕組みが必要であり、教育委員会としても、機器類が盗難にあわないよう学校の戸締まりや教職員の意識向上等に一層今後気を付けていかなければならない。子どもたちも持ち帰った際に、落としたり盗難に遭ったりしないように新しい指導も必要になる。

今日は「教育大綱の改訂」と「ICT活用教育」という大きな2つのテーマにおいて、これからの将来の教育について説明を受けたり意見を聞いたりした。本日は私自身良い研修をさせていただきました。

ありがとうございました。

以上